



アメリカ山公園(中区) (写真提供 アメリカ山公園パートナーズ)

あらたな手法・あらたな賑わい

公園やオープンスペースの役割は普遍的なものです。手法は時代とともに移り変わっていく部分もあります。近年、公園に限らず「民間活力の導入」として民間事業者の柔軟な発想や資金を活用し、より魅力ある空間を創っていくという動きが盛んです。また、法制度の改正などにより、従来は整備が難しかった条件でも公園が整備できるようになりました。横浜市では、こうした新しい手法や制度を積極的に用いることで、公園の魅力を高めるだけでなく、まちの課題の解決にも繋げていきました。

山下公園レストハウスでは、公園内にコンビニエンスストアを設けるという、当時では前例のない民間連携の取組として注目されました。売店としてコンビニエンスストアを出店するだけでなく、事業者の提案によって子供も遊べる休憩スペースの設置や、観光客向けの情報の提供や横浜みやげの販売等を付加し、魅力ある空間を形成しています。

アメリカ山公園は、平成16(2004)年の都市公園法改正で新たに設けられた立体都市公園制度を活用し整備されました。増改築した駅舎上部を公園区域にするとともに、これに隣接する緑地を公園として一体的に整備し、地区の回遊性の向上とオープンスペースの確保を同時に実現しました。公園区域の建物内には便益施設を設け、地域の魅力向上や駅前拠点としての賑わいを創出するために、公園全体の運営を行う管理運営事業者がテナントを誘致しています。

また、今では当たり前になっているネーミングライツを公園としていち早く導入したのが新横浜公園内にある日産スタジアム(横浜国際総合競技場)です。日本最大規模を誇るこの競技場は、管理運営に多くの費用が必要なことからその検討が始まりました。その後、市では、ネーミングライツを「横浜市、スポンサー、市民それぞれにとってメリットになり、地域活性化につながるような取組」として進めており、ニッパツ三ツ沢球技場(三ツ沢公園球技場)など、4公園で実施しています。

Column 11

横浜の公園とスポーツ

日本におけるテニス発祥の地となった山手公園や、横浜スタジアムのある横浜公園以外にも、横浜の公園とスポーツの関係には深いものがあります。

三ツ沢公園は昭和24(1949)年に「第4回国民体育大会」のバレーボール会場として開園しました。昭和30(1955)年には、「第10回国民体育大会」のメイン会場、昭和39(1964)年には「東京オリンピック」のサッカー会場、昭和54(1979)年にはサッカー「FIFAワールドユース選手権」会場などになりました。また、サッカー

Jリーグでは平成5(1993)年の開幕から使用され、現在横浜FC、YSCC、横浜F・マリノスのホームグラウンドです。また、全国高校サッカー選手権やラグビートップリーグなども開催されています。フィールドとスタンドが近く、臨場感や一体感が大きな魅力です。

新横浜公園の横浜国際総合競技場(日産スタジアム)は、国内最大級の70000席(ワールドカップで20000席追加し現在は72000席)収容の総合競技場として、平成10(1998)年にサッカー「ダイナスティカップ」年にサッカー「ダイナスティカップ」日本対韓国戦でオープンし、「第53回神奈川国体秋季大会」のメイン会場となりました。

2002年FIFAワールドカップでは、日本のFIFAワールドカップ初勝利を含めた3試合とブラジル対ドイツの決勝戦が行われ、大会は横浜で幕を閉じました。

質の高い芝の管理には定評があり、FIFAクラブワールドカップや国際陸上大会、Jリーグ、ラグビーなど多様なスポーツの舞台になつており、Jリーグの横浜F・マリノスのホームグラウンドとしても市民に親しまれています。



三ツ沢球技場(神奈川区)での高校サッカー

公民連携による賑わい創出

都市公園法の設置管理許可制度は公園管理者以外が公園施設を設け管理することを可能にする制度です。市はこの制度を活用して民間事業者による公園の賑わいづくりを行ってきました。山下公園レストハウスは当初、自動販売機が置かれた無料休憩スペースとしてオープンしましたが、平成19(2007)年に株式会社ローソンによるハッピーローソン山下公園店としてリニューアルしました。

民間事業者が収益を上げつつ、公園やまち全体の魅力向上や行政の維持コストの低減につなげる取組は、その後の全国での同様の取組のモデルとなりました。



ハッピーローソン山下公園店(中区)

日本初、立体都市公園制度の活用

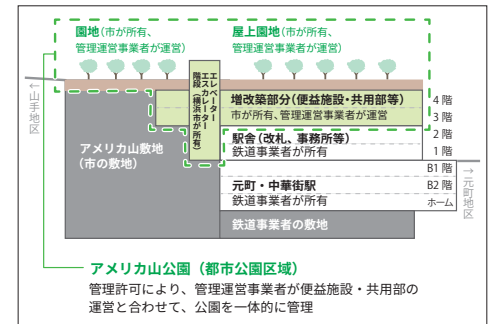
平成21(2009)年開園のアメリカ山公園は、立体都市公園制度を活用し、整備された公園です。

元町、山手両地区は横浜を代表する観光地ですが、高低差のため地区間のアクセス改善が求められていました。そこで、斜面下の元町側に位置するみなとみらい線元町・中華街駅を2階から4階建てへ増改築し公園区域にするとともに、これに接する斜面上の山手地区の緑地とを一体的に公園として整備することで、公園を介して元町地区から山手地区までが容易に行き来できるようになりました。

芝生や草花、市の花「バラ」を中心とした西洋庭園として整備され、地区の環境に調和した観光の玄関口となっています。



アメリカ山公園(中区)



アメリカ山公園管理のスキーム

ネーミングライツ「日産スタジアム」

平成10(1998)年3月に供用開始した横浜国際総合競技場は、2002年FIFAワールドカップの決勝会場となったことで脚光を浴びました。ワールドカップの決勝会場になったことは、横浜国際総合競技場の知名度を世界的に高めました。

この価値を活用するため、当時は例の少なかったネーミングライツに取り組むこととし、企業への積極的なセールス展開を行いました。しかし粘り強い交渉の結果、日産自動車株式会社が本社機能の横浜移転を機にスポンサーとなり、平成17(2005)年に、横浜国際総合競技場は「日産スタジアム」になりました。



2002年FIFAワールドカップ